

一般社団法人 日本皮革産業連合会 平成28年度通常総会が、6月10日午後2時より浅草ビューホテルで開催された。司会者より理事会の参加は理事60名中、参加者46名で過半数以上の出席。通常総会の参加は、会員数26団体中、出席数22名、委任状1名で過半数以上となり、理事会及び総会は成立することを報告した。さらに、定款の規定に従い、議案を理事会で検討した上で、総会に上程し承認を得る形で進める件、説明があった。



始めに岩崎会長より「最近の景気動向はインバウンドも様相が変わり、株価、為替の影響もあり、百貨店を始め良い数字が出ています。消費税率の先送りが決まりましたが、一過性としては歓迎ですが、先行きどのような影響が出るのか不安もあります。政府については是非とも成長が続くような政策をお願いしたいと考えます。」と挨拶。

一般社団法人 日本皮革産業連合会 平成28年度通常総会が、6月10日午後2時より浅草ビューホテルで開催された。司会者より理事会の参加は理事60名中、参加者46名で過半数以上の出席。通常総会の参加は、会員数26団体中、出席数22名、委任状1名で過半数以上となり、理事会及び総会は成立することを報告した。さらに、定款の規定に従い、議案を理事会で検討した上で、総会に上程し承認を得る形で進める件、説明があった。

続いて冒頭の説明の通り定款により、理事会と総会が同時に進行する形で会は進められた。司会者は理事会の議長として岩崎幸次郎氏を推薦、又総会の議長に佐々木多喜男氏を推薦し、了承され理事会及び総会が始まった。

続いて来賓の経済産業省紙業服飾品課の渡辺課長様よりご挨拶を頂き、「6月17日に省内の組織改革があり、紙業服飾品課は廃止され、製造産業部の中の紙業と繊維が分かれ皮革産業は繊維と一緒に生活製品課の中に入ります。これに伴い皮革関連の担当職員も異動がありますが、今まで同様しっかりと行つてまいりますので、よろしくお願いいたします。」と話された。

第一号議案の平成27年度事業報告、第二号議案の平成27年度貸借対照表及び正味財産増減計算書等の議決を求める件、第三号議案の平成27年度収支決算書及び財産目録等の議決を求める件は財務委員長より説明がなされ、続いて第四号議案、平成28年度事業計画の変更の議決を求める件、第五号議案の平成28年度収支予算書の変更の議決を求める件は、それぞれ総会に上程され承認された。第六号議案、新基金に係る交付規定の議決を求める件は、専務理事より今回の補助金に関する交付規定を添付資料を示し説明、承認され

た。

第七号議案、平成28・29年度理事及び監事の選任に関する件は、委員長より添付資料の名簿を提示し原案通り可決承認された。

休憩をはさみ、平成28年度第2回理事会が開催され、一号議案 平成28・29年度役員選任の件、第二号議案 副会長の順序を定める件、第三号議案顧問推薦に関する件は関連議案のため併せて上程された。石川総務委員長より先行委員会を設置し選考する旨説明があり、承認され11名の選考委員が任命された。委員は別室で検討をし、新役員に会長の岩崎幸次郎氏を始め7名の副会長と10名の常任理事を発表、副会長の順序、顧問推薦について功績があつた6名を推薦し承認された。

総会の第八号議案、名誉会長推薦に関する件で、大澤重見氏を推薦し承認され、理事会及び総会は終了した。

当協会会长の小堤幸雄氏は日本靴小売商連盟会長の立場で副会長に任命され、調査情報委員会の委員長の担当となつた。矢代前副会長は顧問就任、益々のご活躍を期待いたしま

副会長・田邊 忠次
(全日本爬虫類皮革産業協同組合) 副会長・藤原 仁
(全日本革類卸売事業協同組合) 副会長・立松 勲
(二社・日本ハンドバッグ協会) 副会長・吉田 輝幸
(二社・日本鞄協会) 副会長・貴田 邦夫
(二社・日本タンナーアズ協会) 企画・研究開発委員長
人材養成委員長
(日本靴小売商連盟) 副会長・小堤 幸雄
調査・情報委員長

平成28・29年度役員(敬省略)
会長 岩崎幸次郎(特定非営利活動法人日本靴工業会)
海外展開促進委員長
副会長・石川 勲
(二社・日本ハンドバッグ協会) 総務委員長
副会長・立松 勲
(全日本革類卸売事業協同組合) 副会長・藤原 仁
(全日本革類卸売事業協同組合) 副会長・吉田 輝幸
(二社・日本鞄協会) 副会長・貴田 邦夫
(二社・日本タンナーアズ協会) 企画・研究開発委員長
人材養成委員長
(日本靴小売商連盟) 副会長・小堤 幸雄
調査・情報委員長



一般社団法人
東靴協会
千代田区鍛冶町1-6-17
〒101-0044 ☎ (3252) 5656

(7月号)



日本皮革産業連合会設立30周年記念祝賀会

平成28年6月10日午後5時より浅草ビューホテルに於いて、皮産連の総会終了後会場を祥雲の間に移し、「日本皮革産業連合会設立30周年記念祝賀会」が開催された。

始めに岩崎会長より「日本皮革産業連合会は皮革産業振興を目的に昭和61年3月12日に発足し、このたび30周年を迎えることができました。

この間、皮革業界は国際化の進展、低価格品の流入、人材の高齢化、流通構造の変化など大変厳しい環境でありました。

役員・各委員の皆様を始め会員団体、皮革連合会の皆様方、並びに関係官庁の皆様、他多くの方のご協力により、30周年を迎えることができました。

当連合会では、皮革産業の持続的発展に向け、現在は8つの委員会を設置し、目標と成果を明確にし、各事業に取り組んでおります。平成25年には公益法人制度の改革に伴い、一般社団法人へ組織変更し活動しております。平成28年度からはTPPを始め貿易の自由化が更に進展することを設置し会員の皆様のご協力を

頂きました。従来の常設のショールームを整備するなど、国内外に向け日本の皮革製品の品質の高さ、モノづくりの良さについて情報を発信し、流通の促進に取り組んでまいりました。

中長期事業計画を取りまとめ対応を進めてまいりました。これらを踏まえ平成23年度には、上海に常設のショールームを、平成24年度には東京銀座に常設のショールームを整備するなど、国内外に向け日本の皮革製品の品質の高さ、モノづくりの良さについて情報を発信し、流通の促進に取り組んでまいりました。

向けてを策定。平成23年には、中長期事業計画、を取りまとめ対応を進めてまいりました。これらを踏まえ平成23年度には、上海に常設のショールームを、平成24年度には東京銀座に常設のショールームを整備するなど、国内外に向け日本の皮革製品の品質の高さ、モノづくりの良さについて情報を発信し、流通の促進に取り組んでまいりました。

続いて、ご来賓の経済産業省紙業服飾品課課長、渡辺政嘉様より、林経産大臣より祝辞を預かりましたので代読いたします。と述べられ、「このたび日本皮革産業連合会が30周年を迎えることを御祝申し上げます。貴連合会は原皮から鞄、靴、ハンドバッグ、服飾、手袋等々迄の製造、更に卸・小売りの流通までが加盟する我が国の皮革の中核組織として長年にわたり、皮革産業全体の発展と国民生活に取り組んで頂きました。この間、貿易自由化の進展や、世界経済のグローバル化、欧州・アジアの激しい競争、為替変動、国内消費の低迷など皮革産業を取り巻く環境は大きく変化してまいりました。その中で、国産企画、国際交流の推進、デザイン、製

踏まえ、皮革産業の競争力強化に向けた取り組みも始めております。これらの国際化への対応や皮革産業の発展に向け、人材育成や、ファンの開拓、ブランド化、技術開発、国際展開、普及啓発などの事業を今までに増して、取り組みや対応が益々重要になると考えます。」と挨拶。

続いて、ご来賓の経済産業省紙業服飾品課課長、渡辺政嘉様より、林経産大臣より祝辞を預かりましたので代読いたします。と述べられ、「このたび日本皮革産業連合会が30周年を迎えることを御祝申し上げます。貴連合会は原皮から鞄、靴、ハンドバッグ、服飾、手袋等々迄の製造、更に卸・小売りの流通までが加盟する我が国の皮革の中核組織として長年にわたり、皮革産業全体の発展と国民生活に取り組んで頂きました。この間、貿易自由化の進展や、世界経済のグローバル化、欧州・アジアの激しい競争、為替変動、国内消費の低迷など皮革産業を取り巻く環境は大きく変化してまいりました。その中で、国産企画、国際交流の推進、デザイン、製

造技術など、積極的に取り組まれ、常に皮革産業の大きな特別功労賞・功労賞・感謝状の贈呈が行われた。

氏、猪瀬昇一氏、徳永耕造氏、大野晴治氏、池上純平氏、川村洋三氏、矢代裕夫氏、岩崎幸次郎氏の8名が、会長より見氏より「30周年」という榮え

ある場におきまして、受賞され表彰された。代表して大澤重見氏より「30周年」という榮え

造技術など、積極的に取り組まれ、常に皮革産業の大きな特別功労賞・功労賞・感謝状の贈呈が行われた。



次に、日本皮革産業連合会の事業に対し、多大な貢献をされた方に對し、「一般社団法

理事会・支部連絡会

だより

平成二十八年六月二十四日(金)
午後2時、西村記念ホール

小堤会長から「英國のEU離脱がきましたが、大きな影響も懸念されます。世の中が大きく変化しそうです。いずれにしても自由化の流れは止められない状況です。我々小売業は直接の影響は少ないかと感じますが、株価、円高等、景気への影響など様々な状況が考えられます。また、参議院選がスタートし、都知事選と落ち着かない状況が続きそうです。夏のセールも控えており、情報と共に努力して頑張って乗り切ってください。」と挨拶。

続いて司会の松戸副会長により、本日の出席者数が26名との報告の後、議事に入った。

一、夏期レクリエーションについて

栗原昭宜副会長より、8月18日木曜日に開催する「レクリエーション」は「房総半島笠間観音参拝」と「鰯の浦・小湊温泉の旅」となり、最後にはひもの工場での買い物も予定している。等コースの詳細な説明があった。

二、8月夏期学校「講座」について

先着40名となっており、お早めにお申し込み下さい、と要請した。

栗原昭宜副会長より、今年の夏期学校は8月3日水曜日の夏期学校は8月3日水曜日

午後2時、西村記念ホールで開催されました。世の中が大きく変化しそうです。いずれにしても自由化の流れは止められない状況です。我々小売業は直接の影響は少ないかと感じますが、株価、円高等、景気への影響など様々な状況が考えられます。また、参議院選がスタートし、都知事選と落ち着かない状況が続きそうです。夏のセールも控えており、情報と共に努力して頑張って乗り切ってください。」と挨拶。

矢代事務局長代理より、本年の「靴まつり」は国から靴業界に対して基金の積み増しが行われ、靴まつりに對しても助成が受けられるようになつた。小売商連盟全体の事業として位置づけ行うこととなつた。我々は今までと変化はないが、全国展開するためお買物券も500名に当たる内容で進めている。ポスター・パンフ・応募はがき等、小売商連盟として行うため若干変わってくる。来月の理事会には詳細を報告する。と説明。

四、「中堅社員研修」について

栗原昭宜副会長より、中堅社員研修会を今年は7月27日水曜日、午前10時より午後5時まで当ホールに於いて開催。講師はアジアリングの坪谷聰子先生にお願いし「対話力を強化する売り上げと利益を上げる」と題し行う。参加者からテキストと昼食代として2,000円と説明。

五、その他

矢代事務局長代理より、6月10日に行われた皮産連の総会で小堤会長が副会長、矢代スで目的地へ向かう。午前中に第一工場で運動靴・長靴の製造工場の見学。別室で質疑応答の時間を取り終了予定。定員は25名、参加費は2,000円(交通費・昼食代含む)お早目のお申込みをと説明した。

三、「靴まつり」について

矢代事務局長代理より、本年の「靴まつり」は国から靴業界に対して基金の積み増しが行われ、靴まつりに對しても助成が受けられるようになつた。小売商連盟全体の事業として位置づけ行うこととなつた。我々は今までと変化はないが、全国展開するためお買物券も500名に当たる内容で進めている。ポスター・パンフ・応募はがき等、小売商連盟として行うため若干変わってくる。来月の理事会には詳細を報告する。と説明。

皮産連の各委員は、小堤会長が調査・情報委員会委員長。栗原(茂)副会長は財務委員長。松戸副会長は企画・研究開発委員。矢代相談役が人材養成委員。と役職が決まり、活躍していくこととなつた。すでに新聞紙上でも発表されていますが、経済産業省の組織変更があり、今までの紙業を切り離し、新たに生活製品課となり皮革関連・織維関連・住宅関連全体会を統括することとなつた。

その後、今後の各委員会などのスケジュールの確認を行つた。

景況についてのアンケート結果 (対象月…28年6月)		
▶ 全体的な業況		
良 い	0.0%	
悪 い	88.9%	
変わらず	11.1%	
▶ 売上げ		
前月比 増えた	0.0%	
減った	77.8%	
同じ	22.2%	
前年同月比 同じ	0.0%	
減った	77.8%	
同じ	22.2%	
▶ 販売価格は前月比		
騰貴した	0.0%	
下落した	11.1%	
同じ	88.9%	
▶ 販売経費は前月比		
増えた	0.0%	
減った	11.1%	
同じ	88.9%	

東京都中小企業景況調査 [5月]
業況: わざわざに悪化
見通し: 足踏み状態続く

卸売業			業況			
対象数	回答数	回答率	5月		今後3か月間 見通し (当月比)	
			悪い	良い	悪い	良い
875	402	45.9%	-100	0	100	-100
衣料・身の回り品			1. 男 子 服			
			2. 婦 人 ・ 子 供 服			
			3. 靴 ・ 履 物			
			4. か ば ん ・ 袋 物			
			5. 装身具・身の回り品			

小売業			業況			
対象数	回答数	回答率	5月		今後3か月間 見通し (当月比)	
			悪い	良い	悪い	良い
875	295	33.7%	-100	0	100	-100
衣料・身の回り品			1. 吳服・服地・寝具			
			2. 男 子 服			
			3. 婦 人 服			
			4. 子 供 服			
			5. 靴 ・ 履 物			
			6. か ば ん ・ 袋 物			
			7. 雑貨・身の回り品			
			8. 時計・眼鏡			
			9. ジュエリー製品			

場を訪れる光景が恒例化している。売り場の高級品化策にも祖父母の財布は十分に対応しているようだ。

では、シューズ売り場はどうなつか。低価格品売り場ではほとんど見られないが、ブランド品や付加価値商品の売り場では見かけるが、まだ少ない。シュー

ズ市場でも魅力ある商品を開発、提案することが必要になる。その可能性の高いのがキッズ市場でそのつがアースト・シュー

ズだろう。祖父母世代は歩くことの大切さを身を持って体験し、シューズに対する認識も広がっている。良い環境が整つてきている。